

バングラデシュ 障がいのある子どもと家族の支援

①写真の子どもたち、笑顔で楽しそうに遊んでいますね。「うんとこしょ、どっこいしょ」と声を合わせて、「大きなかぶ」の遊びをしています。この子どもたちは、バングラデシュという国に住んでいます。この子どもたちの中には障がいのある子どもがいます。「障がい」とは生まれつきや、病気、けがなどによって、体を動かすこと、話すこと、学ぶこと、生活することに困りごとがある状態をいいます。でも、障がいがあっても、みんなと同じように遊び、笑い、友だちと一緒に楽しい時間を過ごしています。今日は、そんな子どもたちと、その家族を支える活動について一緒に見ていきましょう。

②皆さんは、バングラデシュという国を知っていますか？ バングラデシュは、アジアの南側にある国です。大きな川が流れ、ベンガルトラがすむマングローブ林が広がる、自然豊かな国です。多くの人はイスラム教を信じていますが、キリスト教、ヒンズー教、仏教を信じている人も暮らしています。都市には高いビルが建っていますが、地方では、生活に必要なものが十分にそろっていない地域もあります。病院が遠かったり、医療費を払うことが難しく、必要な治療を受けにくい人もいます。特に大きな困難を抱えやすいのが、障がいのある子どもたちです。

③日本では、障がいのある子どもたちは特別支援学校で学んだり、病院などでリハビリを受けたりすることができますが、バングラデシュは、まだ支援の環境が十分ではありません。特に田舎では、障がいについての誤った理解や偏見が残っていて、「家族のおこないが原因だ」と考えられることもあります。そのために、家族の関係が難しくなり、母親と子どもだけが残され困ってしまうことがあります。でも、障がいのある子どもたちも、神さまに愛された大切ないのちです。

④そのような子どもたちと家族を支えるために、日本キリスト教海外医療協力会（JOCs）は、看護師の岩本直美さんをバングラデシュの北にあるディナジプールへ派遣しました。ミラノ外国宣教会が始めた、知的障がいのある子どもた

ちと家族を支える JOYJOY プロジェクトで、岩本さんはリーダーとして活動しています。岩本さんが活動しているディナジプールは、田んぼが広がる自然豊かな場所です。そこには、特別な支援を必要とする子どもたちを受け入れる場所は、ほとんどありませんでした。

⑤岩本さんは、支援を必要としている子どもたちを探して、村を訪ね歩きました。そして、服を着ずに近所を走り回っている子や、お母さんが働くプラスチック工場で横になって過ごしている子など、安心して過ごせる居場所がない子どもたちに出会いました。なぜ、そのような生活になっていたのでしょうか。お母さんたちは、家族の生活を支えるために働くことで精一杯でした。また、障がいについて正しく知る機会が少なく、相談できる場所もないので、子どもたちは自分に合った生活の方法を知らないまま、一日を過ごしていました。

⑥岩本さんは、子どもたちが安全に、安心して過ごせる居場所をつくりました。そこでは、子どもたちは遊んだり、友だちと関わったり、生きるために必要なことを学んだりすることができます。毎朝、子どもたちをスタッフが電動の三輪車で迎えに来ます。子どもたちは、JOYJOY プロジェクトに通うことが楽しみで、待ちきれずに家の前で待っている子どもたちもいます。以前は居場所もなく、毎日過ごしていた子どもたちに、友だちと一緒に成長できる大切な居場所ができました。

⑦皆さんは、「療育」という言葉を聞いたことがありますか？ 療育とは、障がいのある子どもたちが、自分らしく生活できるように成長を助ける活動です。子どもたちの多くは、食べ方やトイレの使い方など、毎日の生活に必要なことを教わる機会があまりありませんでした。JOYJOY プロジェクトでは、一人ひとりにあった体の動かし方や手の使い方を練習し、毎日の生活に必要な力を少しずつ身につけています。「できた！」という小さな喜びを積み重ねることが、子どもたちの自信につながっています。

（日本ではごはんを食べるとき、はしを使いますが、バングラデシュではごはんをたべるとき、右手をつかって食べます。バングラデシュでは、さらっとしたカレーとごはんがよく食べられます。子どもたちの中には手をうまくつかえない子もいるので、手の動かし方を学んでいます。）

⑧子どもたちを支えるためには、お母さんやお父さんを支えることも大切です。悩みや不安を抱えていても、相談できる相手がいないこともあります。そこで JOYJOY プロジェクトでは、「母親の会」や「父親の会」を開いています。同じような経験をしている家族が集まり、悩みを話したり、励まし合ったり、ときには障がいのある人の権利について学んだりしています。子どもだけではなく、家族みんなが笑顔になれるように支えています。

⑨皆さんは、母の日にお母さんへ「ありがとう」を伝えたことがありますか？ バングラデシュでも日本と同じように、5月に母の日があります。しかし、障がいのある子どもを育てているお母さんたちの中には、母の日を祝ってもらった経験がない人もいました。JOYJOY プロジェクトでは、活動を始めてから、毎年母の日をお祝いしてきました。今年は、子どもたちは手作りのチューリップを作り、それぞれのお母さんにプレゼントしました。お母さんたちは、子どもたちからのプレゼントを受け取り、とても喜んでいました。

⑩バングラデシュの子どもたちへの支援は、まだ十分ではありません。これから子どもたちを支えるスタッフを育て、安心して通える場所を守っていくことが必要です。一人ひとりの小さなお祈りや応援が大きな希望になります。遠く離れたバングラデシュの子どもたちのためにまずは、その子どもたちや家族のことを覚えて祈ってください。子どもたちが安心して成長し、お母さんやお父さんが希望を持って生活できるように、そして岩本さんや JOYJOY のスタッフの活動が守られるように、一緒に応援していきましょう。

<お祈り>

神さま、わたしたち一人ひとりが大切な存在であることを教えてください、ありがとうございます。おいしいご飯を食べることができ、勉強したり、友だちと遊ぶことができる毎日をありがとうございます。バングラデシュの障がいのある子どもたちや、そのお母さん、お父さん、そして子どもたちを支えている岩本さん、スタッフの皆さんのことを覚えます。みんなが元気に笑顔で暮らすことができるように、健康といのちを守ってください。

イエスさまのお名前をとおしてお祈りいたします。アーメン